

目 次

I 研究主題設定の理由	1
II 研究主題について	2
1 道徳科における指導と評価の一体化について	
2 多面的・多角的な見方を養う授業の工夫について	
III 研究の仮説	2
IV 研究の内容	3
1 評価シートを使った見取	
(1) 評価シート作成までの経緯	
(2) 評価シートについて	
2 多面的・多角的な見方を養う授業の工夫	
(1) 発問の工夫・話合いの工夫・その他	
(2) 各校での実践	
① 小学校3年生「清作のおてつだい」	
② 小学校4年生「雨のバスていりゅう所で」	
③ 小学校6年生「○○さんの良い所」	
④ 小学校4年生「いじりといじめ」	
⑤ 小学校6年生「はじめてのアンカー」	
⑥ 小学校6年生「お母さん、お願ひね」	
⑦ 小学校6年生「ロレンゾの友達」	
⑧ 小学校5年生「あいさつ運動」	
⑨ 小学校5年生「いつでもどこでも」	
⑩ 中学校3年生「震災を乗り越えて」	
V 成果と課題	36

道徳科における指導と評価の一体化 ～多面的・多角的な見方を養う授業の工夫～

提案者 栃教協教研推進委員会 教員部

矢板市立川崎小学校 教諭 荒垣 啓子

大田原市立若草中学校 教諭 館野 恵子

I 研究主題設定の理由

我が国の道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた。平成27年3月27日の学校教育法施行規則の改正により、「道徳」を「特別の教科である道徳」とするとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正が告示された。小学校ではすでに昨年度から、そして中学校においても今年度より「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」と変更され、教科化となった。

栃教協教研推進委員会教員部では、長年継続して、「心の教育」及び「道徳教育」の研究を行ってきた。本部会では、平成29年度より3カ年計画で「道徳評価シート」を活用した道徳の評価について研究を行ってきた。時間毎の児童生徒の評価を蓄積することで変容が捉えやすくなったこと、また、評価の視点が明確になることで指導の改善が図られ、児童生徒の道徳的価値への関心が高まったことなどの成果を得ることができた。

一方、昨年度の課題として、「道徳的価値の理解が深まる指導法と評価についての研究」を進めていくことが挙げられた。これまでの実践から、見取の4視点の中で「多面的・多角的に考えようとしている」の視点について、見取が難しいことが問題となっていた。そこで本年度は、多面的・多角的な見方に重点を置いた指導と評価の一体化を目指し、児童生徒の道徳的価値の理解が更に深まるための授業実践を提案する。

II 研究主題について

1 道徳科における指導と評価の一体化について

改訂後の学習指導要領において、道徳科の評価については「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とされている。評価のために子供の学習状況を見取ろうとすることは、自ずと子供の様々な気持ちや考えを授業に生かそうとする学習過程や指導方法の工夫等と結びつく。指導と評価の一体化を踏まえて、大きくりなまとまりの中で、子供の具体的な取組の様子を継続的に把握することに努め、子供の成長を認め励ます個人内評価を行うことが大切であるとされている。

本部会では評価シートを活用した児童生徒の学習状況の見取と評価の研究を進めてきたが、見取シートを蓄積して個票に表したことで、これまでの授業の様子を一度に確認でき、児童生徒の変容が捉えやすくなった。また、個票を基にして、変容が見取りづらい児童生徒に対する手立てを考えることができた。

「指導と評価の一体化」とは、評価を生かして指導の改善を図っていくことである。評価シートを活用しての見取を基に、児童生徒の道徳的価値の理解が更に深まるための、発問や話合い活動の工夫等について研究を進めていく。

2 多面的・多角的な見方を養う授業の工夫について

今回の学習指導要領の改訂では、道徳科における「主体的・対話的で深い学びの実現」及び「考え、議論する道徳の実現」に向けた授業の質的転換を図ることが求められている。そして、その達成のために「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」の2つの評価の視点が特に重視されている。

このことを踏まえて、本部会で作成した「評価シート」には、①「意欲的に考えている」②「登場人物を自分に置き換えて考えようとしている」③「友達の意見を参考にしながら多面的・多角的に考えようとしている」④「今までの自分を振り返り、これから自分の生き方について考えようとしている」の4つの見取の視点を定めている。

昨年度までの評価シートを使っての研究の結果、特に見取の視点③「友達の意見を参考にしながら多面的・多角的に考えようとしている」については、「見取が難しい」「見取ができる資料が限られている」「どのような場面・活動で見取ればよいか」「どのような方法で見取ればよいか」等の反省が挙げられた。これらの反省を基に、今年度は多面的・多角的な見方を養うための授業の工夫として、発問、話合い活動、資料選定、ワークシート等の工夫について研究を進めていく。

III 研究の仮説

多面的・多角的な見方に重点を置いた指導と評価の一体化を図ることにより、児童生徒の道徳的価値の理解を深めることができるであろう。

IV 研究の内容

1 評価シートを使った見取

(1) 評価シート作成までの経緯

本研究の初年度に「道徳教育に係る評価等のあり方に関する専門家会議」（平成28年7月）の資料を基に、評価に向けての見取をどのように進めていかよいかについて話し合った。価値の自覚の深まりや道徳的実践力の意欲の高まりを評価するには、1時間の授業だけでは明確な変容を見取ることが難しく、児童生徒の変容や成長を長期的に見取る評価方法の工夫が必要であると考えた。個々の内容項目ごとではなく、大きくまとまりを踏まえた評価を行うために、毎時間の見取ができ、且つその見取の蓄積により長期間の変容が捉えられる評価シートを作成した。

(2) 評価シートについて

評価シートは、授業中の発言やつぶやき、話合いの様子、ワークシートの記述など、見取ったことを記録していく「見取シート」と、1年間の児童生徒の様子が一覧表となって出力される「個票」の2種類からなる。見取の視点については、「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」の資料に示されたものを参考に、下記の4視点を設定した。

《道徳評価シート見取の視点》

【視点1】意欲的に考えている

ねらいとする道徳的価値について意欲的に考えようとしているか、授業中の発言や話合いへの参加の様子、ワークシートへの記述など様々な場面で見取る。できていれば○。

【視点2】登場人物を自分に置き換えて考えようとしている

発言やワークシートへの記述などから見取る。具体的に自分だったらどうするかななどと、登場人物を自分に置き換えて考えている様子が見られれば○。発問を工夫したり、「自分の体験談が書かれていること」など見取りの手掛かりとなる表記を決めたりしておくのもよい。

【視点3】友達の意見を参考にしながら多面的・多角的に考えようとしている

発言やワークシートへの記述などから見取る。友達の意見についての考え方を述べさせたり、話合い活動を取り入れたりして、他者の意見についての考え方を交流し合う場面を設定することにより見取ることができる。

友達の発言をしっかりと聞き、友達の考え方と自分の考え方の違いを認めていたり、道徳的価値について複数の視点から考えていたりしていれば○。手掛かりとなる表記として「最初は～と思っていたけれど、～と考えるようになった」など、感じ方・考え方の変化が見取れるものが挙げられる。

【視点4】今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考えようとしている

授業の振り返りの場面での発言やワークシートの記述から見取る。授業で扱った道徳的価値に対する今までの自分の考え方を見つめ直していたり、これから自分はどうしていきたいか、どのような人になりたいか、どのように生きていきたいなど考えたりしている発言や表記が見取れれば○。

毎時間この評価シートを使った見取を行い、エクセルのシートに入力することによって、全体の評価と個人の評価が見られるようにした。

なお、評価シートは、個人の1年間の変容が見られる「個票」と、学級全体の毎時間の様子を記入する「見取シート」がある。

資料1 「見取シート」

それぞれの授業での見取を記録するためのシート。1時間ごとに1枚となる。

・見取シート（第1時）

No.	氏名	性別	主題名		備考
			時と場をわきまえ、真心を持って	資料名	
			た意 考 え人 よ物 うを と自 しに いき 換え	て登 場 るの 考 えの い・ 見 るを う分 角參 とのを 的考 し生 にてき にし方 えな よが	ら友 と多 し面 的意 見よ るを う分 角參 とのを 的考 し生 にてき にし方 えな よが
1	柄木太郎	男	○		
2		男	○	○	
3		男	○		
4		男			
5		女	○	○	

個票の第1時に出力される。

・見取りシート（第4時）

No.	氏名	性別	主題名		備考
			家族の幸せのために	資料名	
			た意 考 え人 よ物 うを と自 しに いき 換え	うら友 と多 し面 的意 見よ るを う分 角參 とのを 的考 し生 にてき にし方 えな よが	
1	柄木太郎	男	○	○ ○	視点3
2		男		○	
3		男			
4		男			
5		女	○ ○	○	

個票の第4時に出力される。

・見取シート（第8時）

個票の第8時に出力される。

資料 2 「個票」

1年間の児童生徒の学習の様子が一覧表となって出力される。

これにより、年間で児童生徒がどのように変容したのかを確認しやすくなる。

前ページ「資料1 見取シート」とリンクしているのでこちらに入力する必要はない。

見取シートの第1時に入力したものがここに出力される。

第4時

第8時

2 多面的・多角的な見方を養う授業の工夫

(1) 発問の工夫・話合いの工夫・その他

【発問の工夫】

- 道徳的価値を自分のこととして捉えることができる発問
 - ・教材を基に、自分の体験や感じ方、考え方を深める発問
 - ・何について考えるのか（場面・人物・行為・判断・動機等）明確にした発問
 - ・児童生徒の発達の段階や実態に沿った発問
- 児童が、多面的・多角的に考えることができる発問
 - ・いろいろな立場で考えさせる発問
 - ・見方を変えて考えさせる発問
- 発問のタイミング（授業の流れ）の工夫
- 授業の導入と終末の変容を見取る発問

【話合いの工夫】

- ペア、小グループでの話合い
- 立場を明確にした話合い（ネームプレート・赤白帽子）
- ホワイトボード、付箋、心の円グラフ、心情曲線等を活用した話合い
- 役割演技、動作化を取り入れた話合い

【その他】

- ワークシートの自己評価（「多面的・多角的に考える」の項目）
- 問題解決的学习、学級活動とのつながり
- 資料の選定（学校行事の作文、下級生からの手紙等）
- 板書の工夫（立場による考え方の違いの対比）

(2) 各校での実践

① 小学校 3年生

資料名	清作のおてつだい
内容項目	C-14 家族愛、家庭生活の充実
ねらい	清作と母親の互いを大切に思う気持ちを考えることを通して、「家族を思う心」を大切にしながら、家族のために自分のできることをしようとする心情を育てる。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 家族のために自分にできることにどんなことがあるか話し合う。	5	<p>○「家族のためにできること」には、どのようなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事の手伝い（皿洗い、新聞取り、風呂洗い） <p>◎家族にいろいろな世話をしてもらっているだけでなく、自分にもできることがあることをおさえ、ねらいとする価値への方向付けを図る。</p>	
価値への追求把握	<p>2 資料「清作のおてつだい」を読んで、清作少年の「家族を思う心」について話し合う。</p>	<p>5</p> <p>10</p> <p>15</p>	<p>○清作のお母さんは、清作のことをどう思っていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やけどをさせてしまって、清作に申し訳ない。 ・もっともっと勉強して、学問で仕事をしてほしい。 ・左手が使えなくとも人の役に立つ仕事をしてほしい。 <p>○清作は、お母さんのことをどう思っていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で農業をしている母親を手伝いたい。役に立ちたい。 ・家族を手伝って働くことができなくてつらい。 ・母親の願いを叶えたい。学問で仕事ができる人になりたい。家族を喜ばせたい。 <p>◎母親と清作が、互いを大切に思う心をもっていることを押さえる。</p> <p>清作が、医者になりたいという夢を叶えることができたのは、どんな心があったからですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの「学問で仕事を」という願いを叶えたい。 ・お母さんを喜ばせたい。役に立ちたい。 <p>◎ノートに書く時間をとり、ペアで話し合わせた後、全体で練り上げながら、「家族を大切に思う心」をもって、自分にできることを精一杯やったから「人を喜ばせ、人を助けようとする心」へと広がっていったことを押さえる。</p>	<p>③</p> <p>②</p> <p>③</p>

価値の 内面的自覚	3 今までの自 分を振り返り、 これから自分 ができるこ とを考 える。	5	○自分にできる、家族が喜ぶことは何だと 思いますか。 ○家族のために自分ができることをしよう とする心情がもてるようにする。	④
	4 本時を振 り返る。	5	○ワークシートに記入させ、一人一人が深 く振り返りができるようする。	

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉

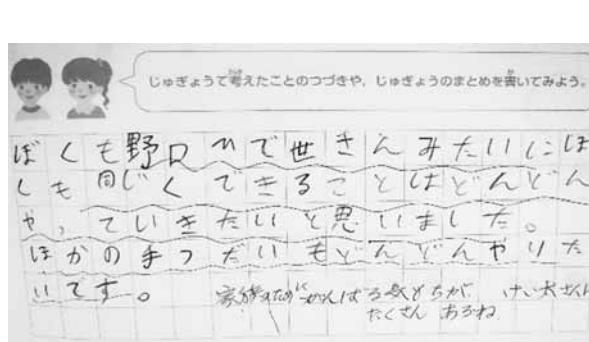


話し合いの工夫
価値への追及・把握では、ペアでの話し合い活動を行い、その後、全体での話し合いをまとめていった。友達と考え方を聞き合うこと

発問の工夫

まず、清作の母について考えさせるごとに、左手を使えないと、清作を、母親が心配してとても大切に思っていることに気が付かせた。その上で、母親を大切に思う清作の気持ちに共感させ、医者になる夢を叶えることができた。理由へと迫ることができるようにした。

「家族のためにできること」を考え、「自分にできることがあること」を押さえ、ねらいに迫る方向付けをした。



④じゅぎょうで考えたこと……
○ゆめをかなえることができたのは、お母さんがもつともつとべんきょうをして、がくもんでしごとをしていくんだよ。といつたから、やるきをだして、べんきょうをしたからゆめをかなえることができました。
⑤あきらめなかったから

授業で考えたことから、自分ができることを、家族のためにやっていきたいという思いを見取ることができた。

家族を大切に思う心があったから、母の「学問で仕事を」という言葉の通りがんばることができたという、道徳的価値の理解を見取ることができた。

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②置き換えて物語りをうながす	③友達の意見を多角的に見ていく	④これまでの経験を自分なりに振り返る	
1		男	○	○	○	○	お母さんの言葉が夢を叶えてくれた。
2		女	○	○	○	○	手術で治してもらい医者になりたいと思った。
3		男		○			お母さんのために一生懸命勉強したから夢がかなった。
4		男	○	○			左手のため手伝えなかったから役に立ちたい。
5		男	○	○	○	○	お母さんのために手伝いたい気持ちで一杯勉強したから。
6		男	○			○	勉強して人の役に立つ仕事がしたいと思った。
7		女	○	○		○	お母さんに喜んでもらいたくて勉強したから。
8		男	○	○			人を喜ばせたいと思ってがんばったから。
9		女	○	○	○		お母さんに言われてやる気を出したから。
10		女	○		○	○	一生懸命人を喜ばせようとしたから。
20		男	○	○			左手が使えるようになったから、その分お手伝いがしたい。
集計			18	12	11	9	

〈考 察〉

- はじめに、清作だけでなく母親の気持ちも考えさせることで、母親の清作を思う強い心が清作の家族を思う心をもたらせた。家族のために自分ができることを続けることが、人の役に立つ医者になることへつながったことを、自然に押さえることができた。
清作だけでなく母親の立場も考えることで多面的・多角的に考えることができた。
- 「家族のために自分ができること」を考える場面で、ノートに書かせることで「これから自分の生き方について考えているか」一人一人の思いを捉えることができた。
- 本資料「清作のおてつだい」を選んだ理由は、次の2点である。①清作だけでなく、母親の視点からも考えさせることができるので、多面的・多角的に考えようとしている評価を見取ることができる。②家族のためだけでなく、他の国の人のことを見て仕事をした有名な人なので、児童の意欲を高めることができる。
- 授業で児童から「清作は母親と二人ぐらしだったのか」等の質問がでた。授業のねらいからそれなりよう参考資料として用意しておいた伝記「野口英世」を紹介し、清作が子供の頃の家庭と家族の様子を簡単に伝えたが、本時で扱う価値からそれてしまう場面もあった。教師が、ねらいとする価値を明確にして指導することの大切さを改めて感じた。

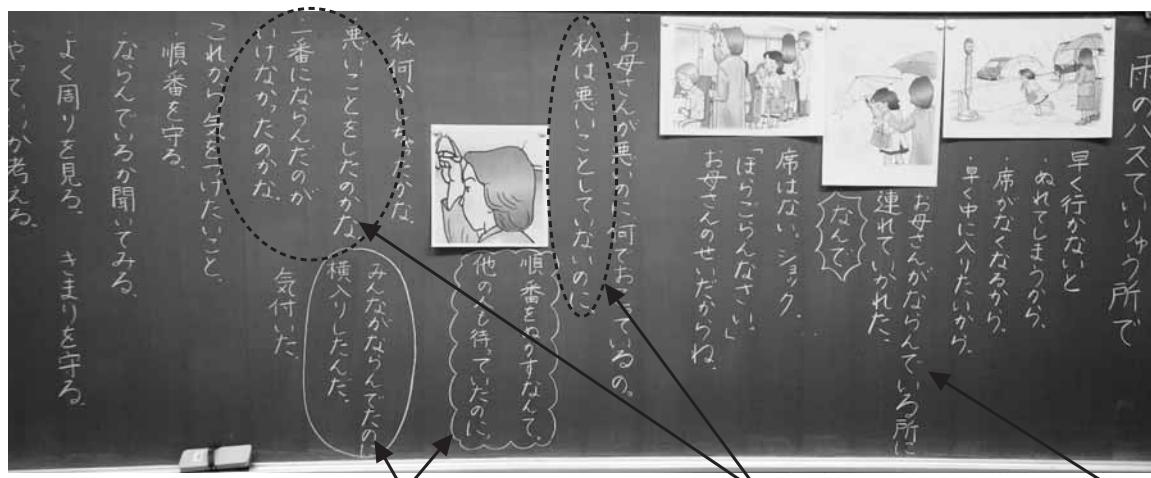
② 小学校 4年生

資料名	雨のバスていりゅう所で
内容項目	C-(1) 規則の尊重
ねらい	雨のバス停留所の出来事におけるよし子の気持ちを考えることを通して、社会のきまりを守ることの大切さに気付かせ、きまりを守って気持ちよく正しく生活しようとする心情を養う。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 ◎指導上の工夫	中心発問	視点
価値の方向付け	1 きまりに関する自分の経験を思い出す。	5	○きまりが守れなかったことはありますか。 それはどんなときですか。		
価値への追求把握	2 資料「雨のバスていりゅう所で」を読んで話し合う。	4	○きまりを守れなかった場面と、そのときの気持ちを思い起こさせて、ねらいとする価値への方向付けを図る。		②
		4	○バスが見えたとき、よし子はどんな気持ちだったでしょう。 ・早く行かないと。・お土産が濡れちゃう。 ・席がなくなっちゃう。・早く入りたい。		
		10	○お母さんが何も言わずよし子を自分の並んでいるところまで連れていった時、よし子はどんな気持ちだったでしょう。 ・私が一番だったのに。なんで。	知らぬふりをして窓の外をじっと見ているお母さんの横顔を見て、よし子はどんなことを思ったでしょう。	②③
		12	• お母さんが悪いのになんで怒ってるの。 • 私は悪いことはしていない。 • 私、何かしちゃったのかな。 ○「お母さんが悪い」と責める気持ちと「自分は何か悪かったのだろうか」と考える気持ちを分けて板書し、考え方の違いが分かるようにする。		③
価値の内面的自覚	3 これからの自分について考える。	5	○お母さんは窓の外を見ながらどんなことを考えていると思いますか。 • 先に並んでいた人がいるのに、横入りするなんて。 • 他の人も待っていたのに。		
終末	4 教師の説話を聞く。	5	○お母さんの気持ちを考えさせることで「私は悪くない」という考えについて違う視点で考えられるようにする。 ○乗り物に乗るときどんなことに気を付ければよいと思いますか。 ○これから自分のについて考えられるようになる。	○みんなが気持ちよく過ごすためには、きまりを守ろうとする態度や周りのことを考えようとする姿勢が大切と話す。	④

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



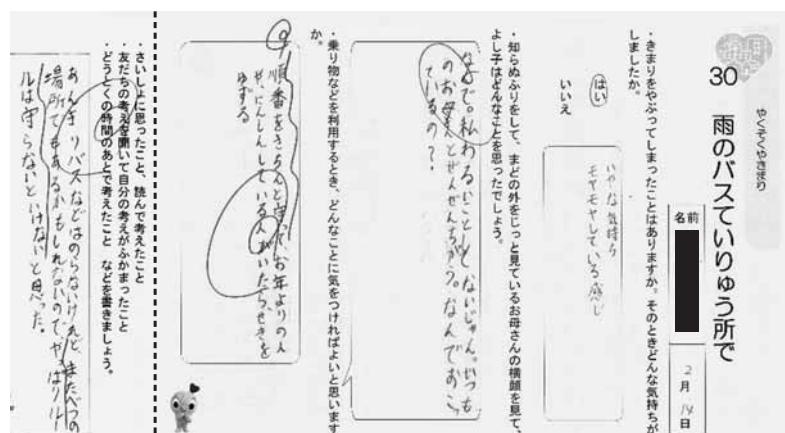
展開後段の自らの生活を考える場面では、どんなことに気を付けたいか話し合った。いろいろな意見に触れ、考えを深めた。

「発問の工夫」
自分本位だった
「よし子」が、お母さ
んの気持ちを考える
ことで自分の失敗に
気付いたことを全体
で深めた。よし子の
かがいなかったの
で、気付くこと
がた。

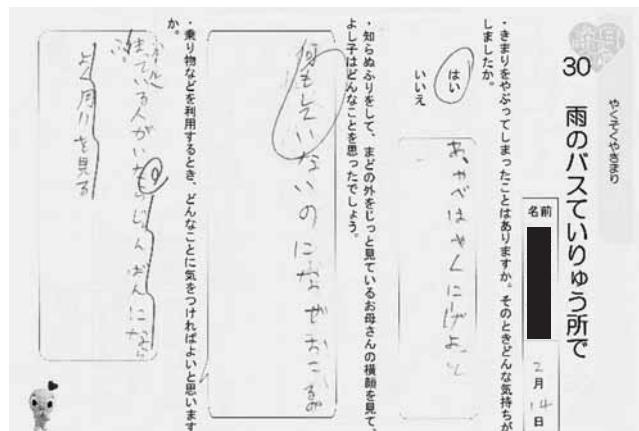
板書の工夫②
お母さんの挿絵の周りに意見を分けて書くことで、考え方の違いが視覚的に捉えられるようにした。

板書の工夫①
資料の場面や心情を具体的に捉えられるよう、挿絵の順によし子の心情を追つていくようにした。

裏面



「私は何も悪いことをしていない。」という考え方から、よし子の失敗に気付き、みんなのためにルールを守らなければいけないという考えを深めることができた。



後段の振り返りで、最初は「待っている人がいるなら順番に並ぶ」とだけ書いていたが、友達の意見を聞き「よく周りを見る」と書き足していた。友達の意見を聞きながら考えを深めることができた。

〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置登き場所を換えて考える	③多い角しての意見多面を参考する・考	④えの返り今までの方れにから自分といいのをつら自ふり考分り	
1		女			○	○	何か悪いことしたのかな。
2		女	○	○	○	○	自分は悪くない。何でおこっている。
3		男	○		○	○	何か悪い事した？
4		女	○	○	○	○	私は悪くない。
5		男			○	○	何でおこっているのかな。
6		男			○	○	何かしたかな。
7		女	○		○	○	悪い事しちゃったのかな。
8		女			○	○	私ルールを守らなかったのかな。
9		女	○	○	○	○	お母さんが悪い。
10		男			○	○	何もしていないのに何でおこるの。
11		女	○		○	○	私は何もしていないのに。
集計			6	3	11	11	

〈考 察〉

- 今回の授業では、当初はお母さんの気持ちを問わなくても、よし子の失敗に気付くのではないかと思っていたが、「私は悪くない」という考え方と「何かしてしまったのでは」という考え方の2つに偏ってしまったため、母の気持ちを問うことにした。発問をするタイミングで児童の考えが大きく変わることを改めて感じた。
- 考え方の違いを分かりやすく板書することで、自分の考え方との違いをしっかりと意識させることができた。
- お母さんの思いを後から問うことで、多様な考えを引き出すことができた。またそのお母さんの思いを問う場面で一人一人の考えを深めることができた。
- 今回の授業では、「私は悪くない」という考え方と、「私、何かしたのかな」という、2種類の考え方からの変容を見取ることができたので、全員に○を付けることができたが、それでいいのか悩んだ。どのような様子が見られたら○を付けるのか、考えておく必要がある。

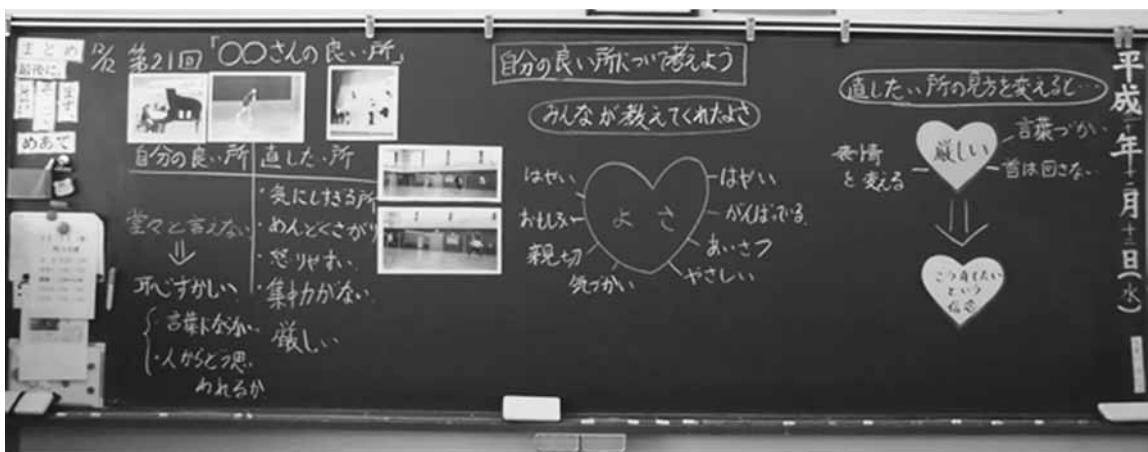
③ 小学校 6年生

資料名	○○さんの良い所（友達や下学年からの手紙）
内容項目	A-(4) 個性伸張
ねらい	他者から自分の良い所がどう思われているかを気付かせ、自分の良い所について自信をもたせると共に、その良さをさらに伸ばしていくこうとする心情を育てる。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 自分の良い所や直したい所について考える。 2 本時で考えることを確認する。	3	○自分の良い所や直したい所はどんな所がありますか。 ◎高学年特有の自分の長所を素直に認められない可能性があるので、事前にアンケートをとっておく。 ◎素直に長所を認められないのはなぜかを問い合わせることで、長所を人と比べて優れている面と捉えていたり、他者からの評価を気にしているたりする実態に気付かせる。 ◎学校行事の写真を示し、誰が見てもわかる自分の良さに気付かせると共に、気付きにくい自分の良さについて考える。	
価値への追求把握	3 自分の良い所について友達からの意見を参考に考える。 4 友達から教えてもらった自分の良さを1つ書く。	15 3	○「クラスの友達の自分だからこそ知っている○○さんの良い所」を伝えよう。 ◎事前に書かせておき、それを伝え合うことで、新たな長所に気付けるようにする。（手紙） ○「下学年が知っている○○さんの良い所」を教えてもらおう。（手紙） ○友達から教えてもらった自分の良い所を1つ書こう。 ◎大勢から挙げてもらった良い所の中から、最も納得できる一つを選び書き込ませることで、自分の良さを大切にしていくこうとする気持ちがもてるようになる。	③ ③④
価値の内面的自覚	5 「自分の直したい所」「良い所に見方を変える」について考える。	20	見方を変えて、自分の直したい所を良い所にするには、どうすれば変えることができるかを考えよう。	④
終末	6 本時の学習を振り返り、考えたことを書く。	4	○自分の直したい所の見方を変えると、良い所につながる可能性があることを、担任が例を示すことで、チャレンジしやすい雰囲気を作る。 ○個人作業の後で、グループ作業することで、新たな気付きができるようになる。 ○本時を振り返り、自分の良さについて考えたことを書こう。 ○本時の学習を振り返り、長所について考えさせることで、自尊心を高めさせるとともに、今後への希望をもたせることができるようにする。（ワークシート）	④

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②置き換えていてる考え分によくして物を自分で見分ける	③多角的に見ていくが、意見を参考する	④今までの生き方から自分の立場をつけて自分を見つめる	
1		男	○		○	○	優しい所をこれからも大切にしたい。
2		女	○			○	自分が良い所と思っていた所が認められてうれしい。
3		男	○			○	先を見通せるようになりたい。
4		男	○		○	○	直したい所をうまくリフレーミングすることができた。
5		男	○		○	○	元気なあいさつを続けたい。
6		女	○		○	○	高学年として取り組んできたことが認められてうれしい。
7		女	○		○	○	見方を変えることで直したい所を良い所に変えることができる。
8		男	○			○	これからも自分の良さを大切にしたい。
集計			8	0	5	8	

〈考 察〉

○自分の良い所は思っていても発表することは恥ずかしかったり、良い所に気付いていなかったりする現状であったが、友達や下学年から自分の良さについて教えてもらう活動を通して、「自分の良さについて友達の意見を参考にしながら多面的・多角的に考えようとしている」ことを見取ることができた。

○リフレーミングをさせる前に、教師の例を示したことで、どのような活動をすればよいのかを理解させることができた。聞いている児童の表情から活動への意欲の高まりを感じることができた。

●語彙の乏しさから、リフレーミングがうまくできない児童もいた。言葉がうまく見つからぬ児童には、こちらがヒントを与え、納得できた場合はそれを書かせるようにした。

④ 小学校 4年生

資料名	いじりといじめ～分けへだてなく～
内容項目	B-(12) 公正、公平、社会正義
ねらい	「いじり」がいけない理由をしっかりと考え方をさせ、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする心情を育てる。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 実際の生活の問題について考える。	5	○授業中、言い間違いをしてしまった友達をみんなが笑いました。あなたはその時どうしますか。 ◎実際の生活の中のいじりについて考えさせる。	
価値への追求把握	2 教材「いじりといじめ」を読んで、話し合う。	10	○げんき君の言葉について、どう思いますか。(だっておもしろかったんだもん。まさる君は気にしてないよ。間違ってもみんなにうけたんだし。気にするほどじゃないだろ。) <ul style="list-style-type: none"> ・笑ってしまった気持ちちは分かる。 ・つい自分も笑ってしまうから、いけないと言いたい。 ・笑ったらいけない。まさるくんがかわいそう。 ・本人が気にしていなくても、聞いていやな感じがした。(いじめというよりいじりだよ。じょうだんだってお互い分かっているんだ。) ・うけたんだから気にしなくてよい。 ・ばかにしちゃだめだよ。いじりはいじめだよ。 ◎「いじり」はしてはいけないということだけではなく、なぜいけないのか、理由についてしっかりと話し合わせる。そして、友達に公平に接することの大切さについて考えさせる。	②
価値の内面的自覚	3 これから自分について考える。	20	自分がこのクラスの一員だったら、どうしますか。	③④
		8	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうだと思うが何も言えない。 ・「笑っちゃかわいそうだよ。」と言う。 ・いじりはいじめにつながる問題だから、ぜったいにやってはいけない。 ◎グループで話し合わせることにより、いじりがなぜ悪いのかについて、多面的・多角的に考えることができるようになる。 ○げんき君に手紙を書こう。 ◎げんき君に手紙を書かせることで、これから自分のはどうしていきたいのかを考えさせる。	③④
終末	4 教師の説話を聞く。	2	◎相手の気持ちを考えて行動しようとする意欲を高めさせる。	

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



発問の工夫

「自分だったらどうするか?」「これから自分はどうしていきたいか?」を話し合わせた中で出てきた「いじめは絶対にやってはいけない。」という意見に対し、「本当にできるのかな?」「どうしてそう思うの?」と問い合わせることによって、「いじめをすることはいけないこと」について、多面的・多角的に考えさせることができた。補助発問をすることによって、心の葛藤を生み出し、ゆさぶりをかけることができた。

話し合いの工夫

いじりをしている子、いじりをされている子、見ている子、いろいろな立場からいじりについて考えることができた。そして、いじりがいじめにつながってしまうから、いじりを見た人が「やめたほうがいいよ。」と教えたほうが良いと考える児童が増えた。

19 いじりといじめ

自分がこのクラスの一員だったら、どうしますか。

笑つたりぬだよ。ひんかにまちがていてもみんちでぬだのはたがたと田べう。教室はまちかえてもいい場所だから。二三、てあけす。

おもしろくたって自分か笑われた、つりねのたがいら相手のこども考えてから笑った。ほつか自分のためにもがうと思つよ。だからまごろさんにおやまたほつがしいよ。

げんき君に手紙を書きましょう。

今日の手書きはどうでしたか。
あとはまるごとに〇をつけましょう。

しおり
○
ことがあつた
○
これかどいぜつに
したいことわかった
○

19 いじりといじめ

自分がこのクラスの一員だったら、どうしますか。

自分もがんばるのもうにわらう子がいると思います。わらわれる人も多くなにやじりと尻ります。

いじめられしみんなの意見を聞くうちに自分もわらわれたらどうやがのりあつちやりけないと思つてあります。

よく「やりました」。

ほくは四年初ばんす音楽会に、お手ががつこをうてしまった冬季のわらう子のことを聞くうちに自分もわらわれたらどうやがのりあつちやりけないと思つてあります。

げんき君に手紙を書きましょう。

今日の手書きはどうでしたか。
あとはまるごとに〇をつけましょう。

しおり
○
ことがあつた
○
これかどいぜつに
したいことわかった
○

〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置き換人を見ていて考える自分によ	③多に友達の意見を参考する・考	④えの返り今までこれの方から自分で自分の面をよろしくして自分を自ぶり考分り	
1		男	○	○		○	まさるさんは嫌な気持ちになっているから今度からは気を付けよう。
2		男	○	○	○	○	自分がやられて嫌なことはしない。
3		男	○	○	○	○	相手のことを考えたほうが自分になる。
4		男	○	○	○	○	自分も笑われたらいやだから、絶対にやめたほうが良い。
5		男	○	○		○	自分が逆の立場になった時のことを見てほしい。
6		男	○	○	○	○	自分が笑われたらいやだと思うからやめたほうが良い。
7		男	○	○		○	まさるさんにきちんとあやまつたほうがいいよ。
8		女	○	○		○	冗談でも笑ってはダメ。
9		女	○	○	○	○	相手を傷つけることはやめたほうがよい。
10		男	○	○		○	まさるさんにきちんとあやまってほしい。
集計			10	10	5	10	

〈考 察〉

- いじりをする側、いじりをされる側、見ている側のそれぞれの立場から考えさせることによって、多面的・多角的に考えさせることができ、いろいろな意見を引き出すことができた。
- 心の円グラフを使っての小グループでの話し合い活動を行い、いじりといじめについて葛藤場面をつくることで、いろいろな角度から考えさせることができた。
- 補助発問を工夫することによって、友達の考えと自分の考えを比較させたり、心の葛藤を生み出させたりしていじめについて深く考えさせることができた。
- いじり・いじめの問題を自分のこととして考えさせることができた。

⑤ 小学校 6年生

資料名	はじめてのアンカー
内容項目	C-(15) 家族愛、家庭生活の充実
ねらい	父母や祖父母に尊敬や感謝の気持ちをもち、家族の一員であることを自覚して、互いに思いやり、協力し合って、明るく温かい家庭を築いていくうとする心情を育てる。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間(分)	○主な発問 ◎指導上の工夫	中心発問	視点
価値の方向付け	1 家族の存在について考える。	5	○「家族」と聞いて思い浮かぶ人は誰ですか。また、その人に何か言いたいことはありませんか。 ◎家族に対する思いを自由に述べることで、発表しやすい雰囲気作りをする。 ◎普段、家族とどのように接しているかを思い起こさせ、ねらいとする価値への方向付けを図る。	○「まきさん一家」について話し合いましょう。	
価値への追求把握	2 資料「はじめてのアンカー」を読んで話合う。	10	○「まきさん一家」について話し合いましょう。 ◎家族の様々な立場を用意することで、多面的・多角的に考えさせる。 • まきさん：初めてお父さんに運動会に来てもらえてうれしい。いいところを見せたい。やっと来てもらえる。運動会が楽しみだ。⇒え？なんで？約束したのに。お父さんなんて嫌いだ。せっかく頑張ろうと思っていたのに。わたしより仕事が優先なんだ。	「お父さん、待って——。」の後に続くまきさんの言葉と、お父さんの返事を考えましょう。	②③
価値の内面的自覚	3 家族の存在について考える。	5	○役割演技を取り入れることで、登場人物の心の葛藤に共感させる。 ◎様々なペアで役割演技を行うことで、多面的に考えさせる。 • まきさん：嫌な態度をとってごめんね。仕事、頑張ってね。 (やっぱり来て欲しいよ。行かないでよ。) • お父さん：運動会行けなくてごめんな。船から応援しているよ。 (本当は行きたい。でも行けない。)	○授業の最初で思い浮かんだ人に、改めて何を伝えたいか考えよう。 ◎最初の考え方と、資料を読んだ後の考え方を比べることで、自分の考え方方が変化したり、変わらなかったりすることに気付かせる。	②③
終末	4 授業の振り返りを書く。	5	○家族とどのように接していくいか書こう。 ◎家族の一員であることを自覚するとともに、家族ならではの愛情や思いやりの気持ちがあることに気付かせる。		③④

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



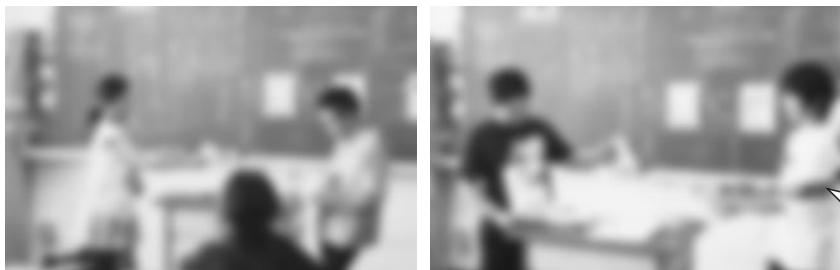
発問の工夫

導入で家族に「言いたいこと」はな
いかと発問したが、後段で家族の存在
について考える際には「伝えたいこと」
と問い合わせ直した。資料を通して、家族と
の関わりを見直し、改めて日頃の感謝
の気持ちを伝えられるようにした。

板書の工夫

「まきさん一家」の相関図を示すことで、様々な立場の考えを視覚的に捉えることができる様にした。

また、メインとなる父とまきさんの関係だけでなく、まきさんと母や弟との関係も考えさせていった。特に、まきさんと弟の「悲しい」気持ちの重さについて数字で表すことで、まきさんの運動会への思いを考えていった。

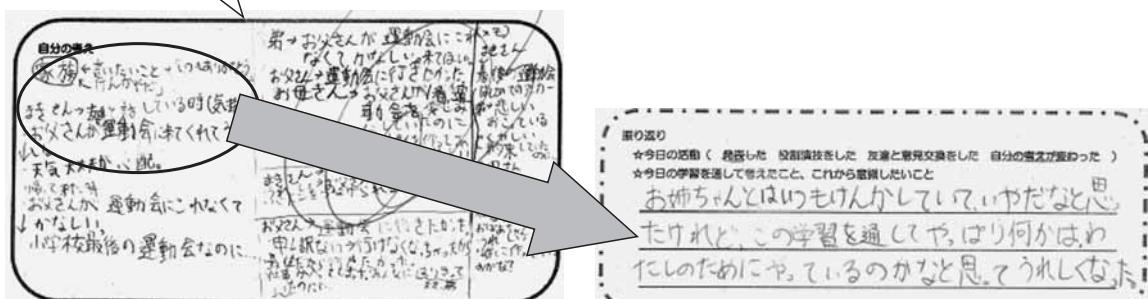


話しの工夫

役割演技を交えて登場人物の気持ちに迫った。まささんの気持ちだけでなく、お父さんの気持ちも考え、互いに本当のことと言えないという状況を確認することができた。

ワークシートの工夫

ワークシートは自分の考えや友達の意見を自由に書けるようにした。また、導入と終末で自分の考えを比べさせてすることで、自分自身の変容が分かるようにした。



〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置き換人して物を考えて自分によ	③多に角的な意見を参考する・考	④えの返りうきうと方から自分について自分を考分り	
1		男	○	○			役割演技
2		男	○	○			役割演技
3		女			○	○	家族に「ありがとう」と伝えたいと思った。
4		女			○	○	家族へ「いつも楽しくしてくれてありがとう。」
5		女	○	○		○	家族へ「いつもありがとう。」
6		男	○	○	○	○	役割演技 お母さんはいつも大変なのに家事をやってくれてありがとう。お父さんはいつも眠いのにいろいろ付き合ってくれてありがとう。
7		女		○			
8		男					
9		女	○	○	○	○	いつもお手伝いしてくれているんだね。
10		女			○		いつもありがとう。
12		男	○	○	○		
13		女					家族の関わり方に興味をもった。関わりは大切だと思った。
14		男	○	○			
28		男	○				
集計			14	17	13	14	

〈考 察〉

- 様々な立場について問うことで、多面的・多角的に考えさせることができた。また、役割演技をさせることで、登場人物の葛藤する気持ちに、より共感させることができた。
- 話合い活動を通して、家族との関わりについて考えさせたことで、改めて家族の大切さに気付き、これから家族と前向きに関わりたいという意見が多く出た。普段は鬱陶しいと思っている家族に対して、感謝の気持ちを伝えたいと考えるなど、考えの変容が見られた。
- 役割演技に慣れていないため、なかなか発表することができなかつた。回数をこなして慣れさせたい。

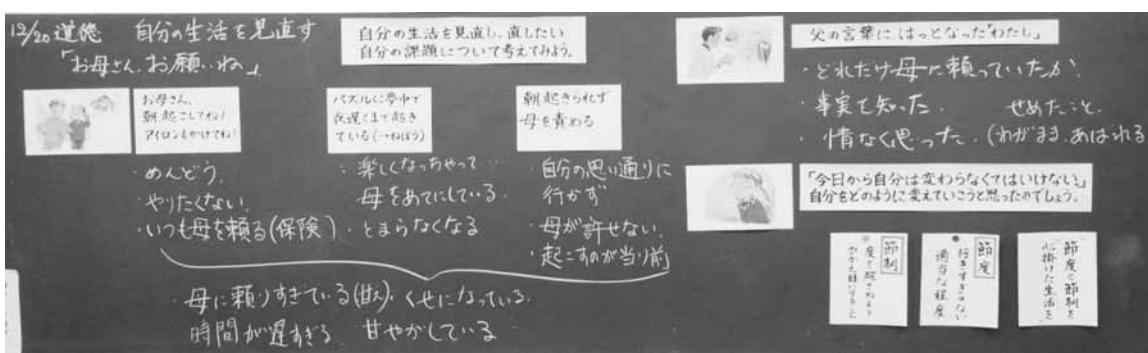
⑥ 小学校 6年生

資料名	お母さん、お願ひね
内容項目	A-(3) 節度、節制
ねらい	生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り、節制を心掛ける態度を養う。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 本時の学習内容について確認し、自らの生活面で見直したい課題を設定する。	8	◎事前アンケートの結果を示し、「自分の生活を見直すことがなぜ必要なのか」という課題意識を各自がもてるようとする。 ◎自らの生活で見直していくことをワークシートに書かせ、課題意識をもって本時の授業に取り組ませる。	④
価値への追求把握	2 「お母さん、お願ひね」を読んで話し合う。	20	○「わたし」のとった言動について話し合いましょう。 ◎なぜ、これらの言動をとってしまうのか。その原因となる「わたし」の意識について多面的・多角的に考えさせ、どうすれば改善が図れるかを考えさせていく。 ◎「母親への依頼心」「先のことを考えていない」「自己中心的」「わがまま」等、「わたし」の意識がトラブルを引き起こす原因となっていることを分析させた後に、事前アンケート結果の一部を示し、自分の生活の中でも同じようなことが起こっていることに気付かせる。	②③
価値の内面的自覚	3 学習活動1で設定した課題について、今後の取組を考える。	10	父の言葉にはっとして「今日から自分は変わらなくてはいけない」と思った「わたし」の気持ちを考えよう。	②③
終末	4 教師の説話を聞く。	5	◎節度がなく、自己中心的であったことに気付いた「わたし」の気持ちを押さえる。 ◎家族が皆、自分のことを考えてくれたり支えてくれたりしていること、それらの家族の思いに応えるためにしていきたいことなど、話合い活動を通して、多面的・多角的に考えていくようにする。 ◎本時の授業で話し合ったことをもとに、今後の取組について考えさせる。	④

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



・いつかわすれたとき
とやってしまふから
何でもやつていいこり
人にたずねるといつ
なんでもやがふま

○ た〇 きた△ あまりできなかつた
話をもとに自分のことと
考えましたか。

（） た〇 きて△ あまりできなかつた
話をもとに自分のことと
考えましたか。

（） た〇 きて△ あまりできなかつた
話をもとに自分のことと
考えましたか。

間を少しでも増やしたいから、(①) できるだけ勉強をする時間を確保してはまるものを□に書きましょう。

学習したことをこれから生かしていこうと考えましたか。(②)

月	日	名前
一組 十五番	土 月 二日	

発問の工夫
自らの生活で見直していく
いことをワークシートに書か
せ、課題意識をもって本時の授
業に取り組ませる。

話し合いの工夫
家族が皆、自分のことを考えてくれたり支えてくれたりしていること、それらの家族の思いに応えるためにしていきたいことなど、話し合い活動を通して、多面的・多角的に考えていけるようにする。

本時の授業で話し合ったことをもとに、授業の最初に設定した自分の課題を改善するための今後の取組について考えさせる。

〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置き換人して物語りを考え自分によ	③多に角的な意見を参考する・考え面をよ	④返りうござり今までの自分から自分のいい方にしてから自分をいいて自ぶ考分り	
1		女	○	○		○	
2		男	○			○	
3		男				○	
4		男	○			○	
5		女	○	○		○	視点2
6		女	○		○	○	
7		女	○		○	○	
8		男	○			○	
9		女			○	○	視点4
10		女	○			○	
34		男	○				
集計			21	6	12	22	

〈考 察〉

- 導入部で本時のねらいを確認し、ねらいとする道徳的価値に関する自らの課題を想起させ、課題意識をもって授業に臨ませた。授業で話し合ったことを基に、自らの課題についてどのように取り組んでいくかを考えさせることができた。
- 日頃よりペアトーク、グループトークを取り入れており、本時においても中心発問でグループトークを行った。自分の考えを伝えるスキルの向上や、相手の意見に耳を傾け、自分とは違った考えを認めたり、他者の考え方から学んだりする態度を育てられるようにしている。
- 評価シートを活用して、各学習活動において見取りたい児童を予め決めておき、活動の様子を見取ることができた。

⑦ 小学校 6年生

資料名	ロレンゾの友達
内容項目	B-10 友情、信頼
ねらい	よりよい友達関係を構築するためには、「分かってくれる」と信じることが大切であることに気付き、友情を深めようとする心情を育てる。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 友情という道徳的価値に向かう問題意識をもつ。	2	○本当の友達とはどんな友達だと思いますか。 ◎事前に行ったアンケート回答内容を見る。	
価値への追求把握	2 資料「ロレンゾの友達」を読み、友情の価値について話し合う。	18	○あなたは3人の誰に近いですか。 ◎自分に一番近いと思われる人物の挿絵の下にネームプレートを貼らせる。	②
		15	ロレンゾの本当の友達は誰だと思いますか。それはなぜですか。	③
			◎違う人物にプレートを貼った者同士でグループピングして話し合わせる。 ◎立場を明確にするために、赤白帽子を活用する。 ◎無理にまとめず、違いの理由を明確にするように促す。 ◎3人の意見は、警察に知らせる・知られないという違いがありますが、気持ちや態度に共通点はあるでしょうか。	
価値の内面的自覚		3	○本当の友達関係を築くために大切なことはどんなことでしょう。 ◎個人の席に戻ってじっくり考えてノートに書く。	②③
終末	3 授業の振り返りを書く。	2	○次の視点から、今日の学習で学んだことを振り返ってみましょう。 ①大切な、価値のあることだと思ったこと ②今までの自分を振り返って思ったこと ③これから的生活や活動にどう生かすか考えたこと	④

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



話し合いの工夫

3人の気持ちや態度の共通点について話し合い、ホワイトボードにまとめさせる。

発問・板書の工夫

挿絵の下にネームプレートを貼ることによって、一人一人の立場を明確にさせる。



話し合いの工夫

赤白帽子を活用して自分の立場を明確にさせる。
違う人物にネームプレートを貼った者同士でグルーピングし、話し合わせる。

〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置登場とき換人物していて考え自分によ	③多に友達との意見を参考する多面的参考う・考	④今返り今までの生き方から自分の生きて自ふり考分り	
1		男	○			○	
2		男	○	○	○		
3		女	○	○	○	○	
4		女	○	○	○	○	
5		男	○	○	○	○	
6		男	○	○	○		
7		女	○	○	○	○	
8		男	○	○	○	○	
9		男	○	○	○		
10		男	○	○	○		
33		男	○				
集計			32	25	24	16	

〈考 察〉

○これまでの評価を振り返ると、「友達の意見を参考にしながら多面的・多角的に考えようとしている。」という結果に課題があることが多い。そこで、意図的に意見の違う友達と小グループになって話し合う場面を設定することで、多面的・多角的に考えさせた。

○ネームプレートと赤白帽子を活用することで、3人の登場人物のうち、自分が支持する人物を明確にさせた。これにより、誰が自分と違う意見をもっているのかすぐに分かるようにした。また、話し合ううちに、支持する人物が変わった場合は、帽子の色を変えるようにさせた。

○ネームプレートと赤白帽子の活用は、立場の違いを明確にするために有効であった。それにより、一人一人が主体的に話合いに参加できるようになるとともに、考えの変化も見取れた。

⑧ 小学校 5年生

資料名	あいさつ運動
内容項目	B-(9) 礼儀
ねらい	挨拶のよさが分かっているにも関わらず、それを継続することの難しさを知り、挨拶がもつ本来の意味について考えを深め、進んで心のこもった挨拶をしようとする態度を養う。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 どんなとき、どんな気持ちで挨拶するか考える。	5	○どんな気持ちを込めて、挨拶をするとよいでしょうか。 ◎どんな挨拶をしているか、1日の生活を振り返って考えさせる。	
価値への追求把握	2 資料「あいさつ運動」を読んで話し合う。	30	○「あいさつの声が聞かれるようになり、教室が明るくなっていました。」と感じた「ぼく」は、どんなことを思ったでしょう。 挨拶のよさがわかったのに、気持ちのよい挨拶を続けることができなかっただけでは、「ぼく」にどんな気持ちがあったからでしょう。	② ③
価値の内面的自覚	3 授業を振り返る。	5	○頭では挨拶のよさについて理解できている「ぼく」が、「道夫さんは目立ちたがり屋だ。」という心ないうわさによって自らも挨拶の声が小さくなるどころか、道夫を遠ざけるようなことまでしてしまうという「ぼく」の心の弱さに注目させる。 ○道夫さんと先生の話を聞いて、自分のしたことを思い返している「ぼく」は、どう思ったのでしょうか。 ○気軽に、心のこもった挨拶ができるようになったみんなは、どんな気持ちになっただでしょう。 ○心のこもった挨拶とは、どんな挨拶か考えてみましょう。 ○これからどうしていきたいかも含めて、礼儀の大切さ、心地よさについて考えを深める。	③ ③ ④
終末	4 学習の手引きに沿って、挨拶ゲームを行う。	5	○挨拶ゲームを行うことで、本時で扱った価値について再確認する。これから、心のこもった挨拶を実践していこうとする態度を育てる。	④

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



挿絵の活用



話合いの工夫（動作化）
目を見てハイタッチ



笑顔があふれます。

③見取シート

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置登き場所としている	③多い角的な意見をうかがう・考へる	④えの返りうべきうと方の生いにから自分をいりて自ふり	
1		女	○	○	○	○	挨拶を続けたら自分ものけ者にされてしまうかもと思ったから。
2		女	○			○	やっぱり恥ずかしいから。
3		男	○	○	○	○	挨拶を続けたら自分ものけ者にされてしまうかもと思ったから。
4		女	○	○	○	○	
5		女	○	○	○	○	
6		男	○	○	○	○	目を見てあいさつした方が気持ちがよい。
7		女	○			○	
8		男	○	○	○	○	
9		女	○	○	○	○	みんなで挨拶をしていこう。
10		男	○	○	○	○	
25		男	○	○	○	○	
集計			25	21	21	25	

〈考 察〉

○挨拶をした方がよいことは分かっているが、今までの4年間の慣れがあり、「取り立ててあいさつをしなくてもよいのではないか」という考え方の児童がほとんどだった。しかし、改めて「あいさつ運動」を学習した後は、朝の教室に入ってきたときの挨拶が増えた。終末に「あいさつゲーム」をしたので、相手の目を見て挨拶すると心が通じて気持ちがよいという体験をすることができた。このことも、挨拶が増えた要因であろう。

○動作化を取り入れたことで、お互いの気持ちを考えることができるようになった。

○授業中の観察だけでは見取れないので、ワークシートや、ノートに記入したものも、評価の参考になる。

●さらに、多面的・多角的な見方ができる話し合いになるようにさせたい。

⑨ 小学校 5年生

資料名	いつでもどこでも
内容項目	B-(9) 礼儀
ねらい	運転手とのやりとりを思い出している「ぼく」の心情を考えることを通して、相手を尊重する気持ちの大切さに気付かせ、礼儀正しく真心をもって人と接しようとする態度を育てる。

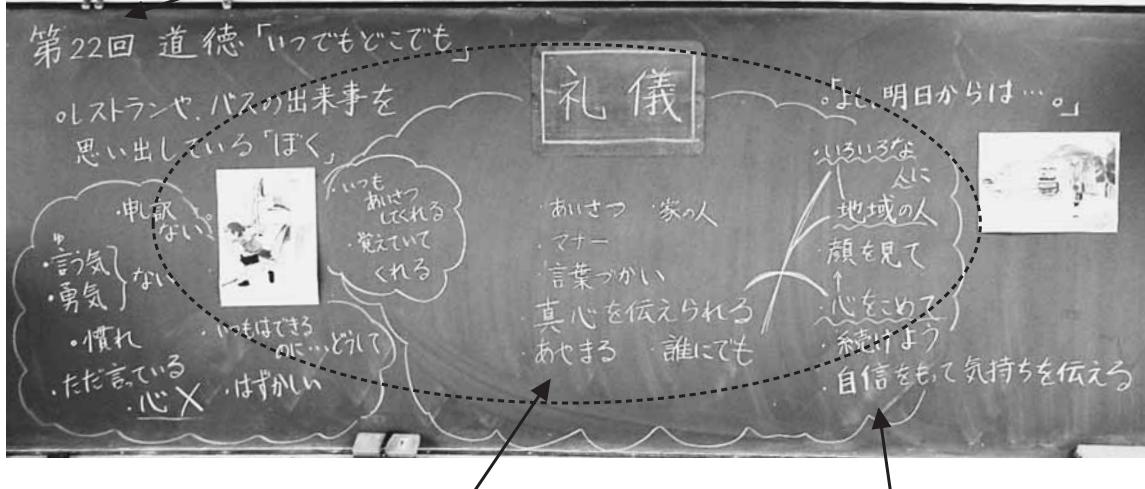
〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 中心発問 ◎指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 「礼儀」についてイメージすることを話し合う。	5	○「礼儀正しい人」と聞いて、どんな人をイメージしますか。 ◎「挨拶」という発言を深め、いつ、誰に、どんな挨拶をしているか振り返らせ、ねらいの焦点化を図る。	
価値への追求把握	2 資料「いつでもどこでも」を読んで話し合う。	20	レストランやバスの中の出来事を思い出している「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。 ◎普段と違う場面だと挨拶ができないこと、慣れからか形式的になっていることをおさえる。また、自分にもそんな経験がないかを問い合わせ、「ぼく」の気持ちに共感できるようにする。 ◎3~4人の小グループで話し合わせ、児童がより多くの意見に触れ、互いの意見を尊重し合えるようにする。	②③
		5	○「よし、明日からは…。」と思っている「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。 ◎単に「挨拶をしよう」に留めず、礼儀を重んじようとしている「ぼく」の気持ちを深く考えさせる。	②③
		5	○「礼儀正しい人」とは、どんな人でしょう。 ◎導入と同じことを問い合わせ、「礼儀」に対する思いが深まったことを感じられるようにする。	
価値の内面的自覚	3 振り返る。	8	○今日の授業や、今までの自分を振り返って、考えたことを書きましょう。 ◎ワークシートに記入させ、一人一人が深く振り返りできるようにする。	④
終末	4 教師の説話を聞く。	2	○次の学級活動で、学校全体の挨拶を活発にするためにどうすればよいか話し合うことを伝え、本時の学習が生きるようにする。	

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉

板書の工夫

毎時間、「第〇回 道徳」と板書することで、35時間の積み重ねを感じられるようにした。



発問・板書の工夫

導入と、展開の後段で同じ発問をし、出た意見をチョークの色を変えてまとめ、授業で考えが深まったことを感じられるようにした。

板書の工夫

ねらいとする価値を中心に置き、礼儀を大切にしている運転手と、礼儀の大切さに気付き、運転手に近づいた主人公を視覚的に捉えられるようにした。

ワークシートの工夫

授業で感じたことを自由に記述させ、児童の思いを見取るとともに、教師自身の授業の反省（評価）とした。

<p>第22回 道徳「いつでもどこでも」</p> <p>①なんでレストランであいさつが出来なかたのか うろか。</p> <p>いつもあいさつをしてくれるので聞いても分かるから いつもたな言葉を言っていたにけだめたのうろか わざわざあいさつしてくれたのに…</p> <p>②ちゃんと顔を見て、心を込めて言おう。 大きな声だけではなく心を込めよう。 いろいろな人に言おう。 続けよう。自信を持つ。</p>	<p>氏名 ()</p> <p>☆振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で、考えたことや学んだこと ・今までの自分や、これから自分の自分について考えたこと <p>礼儀で真心を伝えられるようにすることの大切さを学んだ。 これからもいつでもどこでも誰にでも 礼儀正しく出来るようになりたい。 (感謝の気持ち、あやまる気持ちなど)</p>								
<p>よくできた◎ できた□ もう少し△</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">授業に一生懸命取り組めましたか。</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">◎</td> <td style="padding: 2px;">自分もとに、自分のこととして考えられましたか。</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">友達の意見をよく聞いて、 自分の考えに生かすことが できましたか。</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">◎</td> <td style="padding: 2px;">(「礼儀」)について、 これからできそうなことを 考えることができましたか。</td> <td style="padding: 2px; text-align: center;">◎</td> </tr> </table>		授業に一生懸命取り組めましたか。	◎	自分もとに、自分のこととして考えられましたか。	◎	友達の意見をよく聞いて、 自分の考えに生かすことが できましたか。	◎	(「礼儀」)について、 これからできそうなことを 考えることができましたか。	◎
授業に一生懸命取り組めましたか。	◎	自分もとに、自分のこととして考えられましたか。	◎						
友達の意見をよく聞いて、 自分の考えに生かすことが できましたか。	◎	(「礼儀」)について、 これからできそうなことを 考えることができましたか。	◎						

展開での自分の意見や友達の意見を、メモできるようにした。

見取の4視点を児童に自己評価させ、教師の見取との整合性を図った。

〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置き換えて考える	③多角的に意見をうかがう・考	④の返りうきうきとして自分	
1		女	○	○	○	○	お互い気持ちよい、続ける
2		女		○		○	挨拶で笑顔に
3		女					
4		男	○	○	○	○	礼儀、真心の大切さ
5		男	○	○	○	○	礼儀の役割、皆の心をつなぐ
6		男				○	地域の人々に
7		男	○			○	礼儀正しくなりたい
8		女	○	○	○	○	礼儀の価値、礼儀正しい人になりたい
9		男	○	○		○	もっと心を込めて
10		女	○	○	○	○	気持ちを込める、手本に
18		女				○	心を込めて
集計			11	12	7	17	

〈考 察〉

- ワークシートを活用することで、「登場人物を自分に置き換えて考えようとしている」「今までの自分を振り返りこれからの自分の生き方について考えようとしている」を見取ることができるとともに、一人一人の思いを捉えることができた。ねらいが達成されたかどうかを把握することができ、教師自身の授業の反省にも生かせた。
- 見取の視点を児童にも自己評価させることで、道徳の授業における大切な考え方方に気付かせたり、主体的に授業に取り組む意欲を高めたりすることができた。また、教師の見取とのずれを捉えることで、励ましの声かけ（コメント）をしたり、その児童の見取の方法を改善したりする等、個に応じた対応をすることができた。
- 価値の方向付けと、価値への追求把握の後段で同じ発問をすることで、授業での考えの深まりを感じることができた。
- 「多面的・多角的に考えようとしている」とはその資料においてはどういったものなのか、事前に教師が把握しておくことで、見取をスムーズに行うことができた。

⑩ 中学校3年生

資料名	震災を乗り越えて
内容項目	C-⑫ 社会参画・公共の精神
ねらい	筆者の父の思いや行動の意味を考えることを通して命の大切さについて考え、どんな場合も一人一人の命を尊重し、また一人一人の命が大切にされる社会を築いていこうとする態度を育てる。

〈展開〉

指導過程	学習活動	時間 (分)	○主な発問 ○中心発問 ○指導上の工夫	視点
価値の方向付け	1 画像を見て、本時の資料についての背景を知る。	5	○東日本大震災について覚えていることを話し合いましょう。 ○視覚的に捉えやすいように提示する。 ○勿来町と双葉町と福島第1原子力発電所の位置関係を示し、勿来町よりも双葉町の方が原発に近いことを確認させる。	
価値への追求把握	2 資料の範読を聞いて考える。	10	○瓜生さんは2日間どんなことを考えていましたでしょう。 ○「本当はもっと別なことを言いたかった」とありますが、瓜生さんは何を言いたかったのでしょうか。 ○自由に発表させ、全ての意見を板書する。	②③
		15	家族には電話一本せず、生徒の相談にするために受話器を握る父をどう思ったでしょう。	②③
価値の内面的自覚	3 社会の一員としての生き方について考える。	5	○小グループで話し合い、その後全体に広めさせる。 ○本当は家族を何より心配していることをおさえ、それでも家族には電話一本しないで高校の生徒のために行動したのはなぜかを考えさせる。 ○父はなぜそのような行動をとったのでしょうか。(補助発問) ○「高校教師としての責任」という発言を取り上げ、「社会の一員としての自覚」につなげ、それは何なのかを考えさせる。 ○父は家族を心配していることをおさえる。 ○DVDを視聴しましょう。 ○瓜生さん本人の映像を見せ、少年の主張を最後まで聞かせる。	
終末	4 振り返る。	10	○社会の一員としてこれからどのように生活していきたいか考えてみましょう。 ○自分も社会の一員であることを自覚させ、本時で学習したことを踏まえ、これからどのように生きていきたいかを考えさせる。	④
		5	○自己評価をさせる。	

〈板書・発問・ワークシート等の工夫〉



板書の工夫

瓜生さん本人の立場と、父親の立場を対比してまとめ、ねらいに迫る方向付けができるようにした。



提示資料の工夫

できるだけ詳しく当時を思い出し、背景について共通理解をした上で考え、話合いができるようにした。



話合いの工夫

教師が意図的にグループを編成し、3人の小グループで話し合うことで、誰もが自分の意見に自信をもてるよう配慮した。

また、話合いの約束として、友達の意見に対して相槌を打ったり、質問したりするなど、必ず何らかのアクションをすることとした。

この後全体で意見を交換する際に、多くの生徒が自分の意見を堂々と発表する姿が見られた。

〈見取シート〉

No.	氏名	性別	①意欲的に考えている	②う置き換人して物を考え分よに	③多に角的な意見を参考する・考え面をよ的に参考する	④今までの自分から自分の生き方について自分を考分り	
1		女	○	○	○	○	
2		男	○			○	
3		男	○			○	
4		男	○	○	○	○	時には自分よりも優先させなければならないことがあるということを理解して生活したい。
5		女	○			○	
6		女	○	○	○	○	自分も社会の一員であることを自覚して生活することが大切だと思う。
7		女	○	○		○	
8		男	○	○		○	
9		女	○	○	○	○	今、自分が優先させることは何かを考え、正しく判断して行動したい。
10		女	○			○	
34		男	○	○	○	○	
集計			34	21	24	34	

〈考 察〉

○本資料は、中学生が書いた作文であり、生命尊重や家族愛、社会連帯の自覚等、多方面に渡って考えさせることが可能である。そこで、教師側がどこに焦点を当てるかをはっきりともってぶれずに授業を進めることを意識した。本時は社会連帯の自覚というところに焦点を当て、瓜さんの気持ちだけでなく、家族を思いながらも仕事を優先させた父親に焦点を当てた。生徒に、同年代の瓜さんの気持ちだけでなく、父親の気持ちや行動についても考えさせることで、多面的・多角的な見方ができる話し合いとなった。

○全体で考える前に小グループでの話しを入れたことで、誰もが自分の意見に自信をもてる雰囲気ができた。

V 成果と課題

(1) 成 果

- ① 教師が、児童生徒の多面的・多角的な見方を養うための発問、板書、展開の工夫について深く考えるようになった。
- ② 児童生徒が、多面的・多角的に考える経験を積むことができた。
- ③ 評価シートを活用して見取を蓄積することで、より計画的に評価を行うことができた。
- ④ 見取シートや個票に蓄積されたデータを基に、何を見取るか、どこで見取るか、どのように見取るかなど、一人一人の児童生徒に対する見取の手立てを考えることで、授業の改善が図られた。

(2) 課 題

- ① 児童生徒が自分のよさや成長を実感できる振り返りや評価を工夫する必要がある。
- ② 児童生徒の道徳的実践力を更に高めていくために、道徳科の授業の学びを家庭に伝えるなど、学校と家庭との連携を図る工夫が必要である。